

SAGA-LS WEB MAGAZINE 21

Vol.11 No.3 March 2019

発行：九州シンクロトロン光研究センター

Contents

Essey

放射光学会合同シンポジウム

ユーザーインタビュー

センターから

施設見学者のご紹介

佐賀イベント情報

編集後記

ピアノ

九州シンクロトロン光研究センター

副所長 林 博幸

先日、佐賀市文化会館で佐渡裕指揮、ソリスト反田恭平（ピアノ）日本センチュリー交響楽団のツアー公演があった。

佐渡さんは、サドラーという追っかけがいるほどの人気指揮者、一方反田さんは2年前、テレビのドキュメンタリー番組「情熱大陸」で取り上げられて以降人気沸騰し、ソリストとして今売り出し中の若手ピアニストであり、佐賀でこのコンビを聴けるのだからと発売日に即チケットを購入し、演奏に期待を膨らませ会場に出かけた。

プログラムは、前半が「ラフマニノフのピアノ協奏曲第3番」、後半は2楽章の家路が有名な「ドボルザークの交響曲9番新世界から」だった。私は、難曲中の超難曲として知られ、プロでも弾きこなすことが難しいと言われているこのラフマニノフの協奏曲3番を反田さんがどう演奏してくれるのか大変興味があった。抒情的で親しみやすい第1主題で1楽章が始まったが、数分も経たないうちに、反田さんのオーラと圧倒されるような演奏に引き込まれ、曲が終わった時には涙をぬぐう人も見られるほど会場が感動で包まれた。あっという間の約40分の演奏時間で、素晴らしい音色に包まれた至福のひと時だった。



小さい頃から音楽が好きだった私は、ピアノという楽器を弾くことにとっても憧れをもっていた。

私は、佐賀県と長崎県の県境の山間にある一学年50人程の小さな小学校に通っていたが、同級生に唯一ピアノを習っている女の子がいて、全校生徒が集まる始業式や終業式の最後に歌う校歌の伴奏をその子が弾くのが決まりだった。確か、5年生の頃には伴奏をしていたので、一つ上の上級生にも弾ける生徒がいなかったのだろう。



その子は、自分の出番がくると、自信満々に校歌をすらすら弾き始めるのであるが、そんな彼女は、いつもすごくかっこよく見えた。そして、羨ましく「いつか自分もあがん弾いてみたかー」と思って見ていたものだった。

そんな小学校生活の6年生の時に、音楽の授業で「歌をピアノで弾いてみる」という授業があった。練習曲は、「よく訪ねてくれたね、よくまあねえきみ」という歌い出しの「思い出」（イングランド民謡）という曲で、最後はどのくらい弾けるか数日後にテストするというので、当時自宅にあったオルガンを使い夢中で練習した。そしてテストの日、みんなあまり練習しなかったのか、両手で最後まで弾ける子はほとんどいなかったが、私は練習の甲斐あって両手で最後まで弾くことができた。専科の鶴田先生（女性）は、手をたたいて褒めてくれたし、クラスの子も驚いた様子だった。

そして、鶴田先生から「こんなに上手く弾けるのだったら、ピアノ習ってみたら」と勧められた。授業で褒められることなどほとんど無かったので、飛び上がるくらい嬉しかったし、ちょっとはその気にもなった。しかし、当時はピアノを習う子も少なかったし

「ピアノ＝女の子の習い事」という風潮（偏見）のようなものがあり、そうしようものなら、友達から「お前、男のくせー、女のごたることばしよっとや!」と冷やかされるのがおちだった。親もやりたいたいと言えば反対しなかっただろうし、先生から、「茶道や華道も家元は男性だし、有名な男性ピアニストもたくさんいるから気にしないでやってみたら」と言ってくれたが、友達から冷やかされるのが嫌で、結局一步踏み出すことが出来なかった。そうしなかったということは、今考えてみればその程度の思いしかなかったということだろう。以来、私にとってピアノは演奏会やCDで聴くだけのものとなった。

それから、早四十数年が経ったが、昨年ある二つのことがきっかけで、小学校の時の「ピアノを弾きたい」という気持ち再びがわいてきた。

一つは、保育園の年中時からピアノを習っている娘が、課題曲を練習する際に、特に最初は上手く弾けないので、「こう弾いたら」という私の助言をどうにか聞いていたが、近頃は「お父さん、ピアノ弾けないんだから、黙っていて!」と、ほとんど聞き入れてくれなくなったことだ。



確かに楽譜もほとんど読めないし、弾けないのは事実であるが、私は、これまで名だたるピアニストの演奏会やCDもたくさん聴いてきた自負もあるので、「弾けないけど、聞く耳は持っている」と反論してはみるのであるが、やはり弾けないので、言うことに説得力がないし、子供の心に響かない。これは弾けるようになるしかないと思ったのである。

もう一つは、昨年8月に当センターが開催した研究成果報告会の休憩時間に、佐大のK先生とひよんなことで音楽の話になり、娘がピアノを習っているとの話をしたら、自分も数年前から習っていて、ピアノが上手になりたいのであれば、我流ではなく習いに行くのが早道であることを力説されたことだ。

先生は、昨年12月と本年2月に神埼市内であった小学生を対象としたピアノコンクール（地区予選会）に、ご自分の勉強のためにと聴きにいられていた。

毎日、寸暇を惜しんで練習されているとのことであり、何事にも熱心な先生には敬服するばかりである。このような先生の話は、大いに刺激になった。

このようなことで、早速昨年末に、ピアノ曲の中で気に入っている曲の一つであるグリーグの抒情小曲集（楽譜）を購入し、その中で一番簡単な「思い出」という曲をほんの少しずつではあるが練習を続けている。

練習している時、今まで私から言われる側だった娘からは、「もっと簡単なものから練習した方が良い」とか「習いに行くのであれば、絶対私の教室には来ないでね」とか反撃をくらっている。

まだ習いに行っているわけではないが、今は、小学生の時のように周りから冷やかされることを心配する必要もいらぬし、先々の認知症対策にもなるし、今度は一歩踏み出してみようと考えている今日この頃である。



第 32 回日本放射光学会年会・

放射光科学合同シンポジウム (JSR2019) 報告

実行委員長 妹尾 与志木

(九州シンクロトン光研究センター 副所長)

2019 年 1 月 9 日 (水) ~ 1 月 11 日 (金) に、第 32 回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムが福岡市の福岡国際会議場を会場として開催されました。当研究センターが学会の実行委員会の主体を担う幹事機関を務めました。日本には当研究センターと同じようなシンクロトン光施設が計画中のものも含め 9 施設あり、上記学会はこれらの施設に関わって研究を行う研究者の年一回の定例会議です。なお、「シンクロトン光」と「放射光」とは、名前の由来を光を発生させる電子の軌道に求めているか光の軌道に求めているかの違いだけで同じものを指します。各研究者が所属する日本放射光学会の年会と各施設がその成果を発表する合同のシンポジウムとを併せて行うとの意味で、このような長い名前が与えられています。以下本学会を単に「シンポジウム」、2019 年 1 月開催の第 32 回分を「JSR2019」と略記いたします。

幹事機関は全国の施設が持ち回りで務めていますが、九州では当研究センターは唯一のシンクロトン光施設であり、当研究センターが幹事を務めるときのみが九州での開催になります。先回は第 25 回のシンポジウム (日時: 2012 年 1 月 6 日 (金) ~ 9 日 (月)) の幹事機関を務めましたが開催場所は地元の鳥栖市民会館でした。今回は当時に比べるとシンポジウムの規模がずいぶん大きくなっていましたので佐賀県内に適当な施設が見つけられず、佐賀県の施設が主導する行事としては異例でしたが福岡国際会議場での開催とさせていただきます。当研究センター単独で運営することはとても無理でしたので、当研究センターに他機関ビームラインを設置されている九州大学シンクロトン光利用研究センターと佐賀大学シンクロトン光応用研究センター、佐賀県庁などの機関の方々にご協力をお願いして多くの業務を引き受けていただきました。

シンポジウムの運営にはプログラム委員会と実行委員会のふたつの委員会が組織されます。シンポジウムの学術的側面を担うプログラム委員会のほうは九州大学先導物質化学研究所の高原淳先生に委員長をお願いして当研究センターからも副委員長を含む若干名の委員を出しましたが委員構成は全国規模です。会場の整備などの裏方的仕事が幹事機関が中心的にその役割を担う実行委員会の任務です。実行委員長を私が務めました。また副委員長を九州大学シンクロトン光研究センターの副島雄児先生と佐賀大学シンクロトン光応用センターの郭其新先生をお願いいたしました。多くの実行委員会の仕事からいくつかを以下に紹介させていただきます。

最初の仕事が会場の選択と予約です。会場の選択については前述のように悩ましい面があったのですが、福岡国際会議場は JSR2019 のような比較的規模の大きい学会に適した九州の中では非常に数少ない会場の一つでした。2 年前から予約が可能で、ほぼ 2 年前に連絡を取ったのですがすでに若干の調整が必要でした。シンポジウムの中で懇親会も大変重要な行事です。同会場には福岡サンパレスが隣接しており懇親会の場所としては最適です。最も広い部屋が JSR2019 の懇親会のためには狭すぎる問題はあったのですが外に広いロビーがあり、そこと一体で使用する事として、同ホテルを懇親会会場と決めました。

シンクロトン光施設には多くの実験機器が備えられていますが、これらの機器を扱うメーカーや商社の方々との接点として毎年シンポジウムには「企業展示」が併設されます。シンポジウムにとっては、研究者と業者の方々との幅広い交流の場を提供する意味以外に、「出展料」収入を得るといふかなり差し迫った意味も持ちます。非常に広い福岡国際会議場の会場をお借りする費用は公共の施設とは言ってもそれなりの額になりました。前回当研究センターが幹事機関を務めた第 25 回のシンポジウムの企業展示の規模は 49 ブース、これに対して昨年度のシンポジウム JSR2018 では、関東（つくば市）での開催で「Photon Factory」という国の基幹施設のおひざ元ということもあり 82 ブース。別に競争する必要はないのですが、シンポジウムの規模が大きくなっている分収入増の必要性も増えています。結局、結果として JSR2019 では 72 ブース（70 企業）の規模になりました。前回これを担当した研究員が今回の担当にも当たり多くの方々にお手伝いをいただきました。勧誘にあたっては紳士的態度を保つことに十分気を配ったこと、また、九州内の企業の方々にも多くの応援をいただいたことを付記しておきたいと思います。

最も労力がかかるのが開催当日です。人的な面では、講演会場（全部でほぼ 6 会場）各会場にプログラム委員会から指名される司会者の方以外に、実行委員会の責任者が 1 名、講演時間を測るタイムキーパーが 1 名、質問時のマイク係が 2 名程度、また、会場の受付要員として、学会が事務を依頼しているポリス・セクレタリーズ社の方々以外に、事前予約のある方用に 3 名、当日申し込まれる方用に 4 名、クロークに 3 ~ 4 名（いずれも最繁時）、等々が必要です。実行委員会のメンバーが手分けをして行のですが、当日のこのような労力は学生の方のアルバイトをお願いしなければどうにもなりません。会場が福岡市という要素もあったので、当日の業務は、実行スケジュールの立案も含め相当な部分を九州大学の実行委員の先生方をお願いしましたし、アルバイトの学生さんも同大学の研究室の中から選抜していただきお願いいたしました。福岡国際会議場は料金体系が細かく、標準使用時間以降は段階的に延長料金がかかります。予算上想定外の延長は厳しい状況でしたが、講演終了後の撤収作業を見事な手際で行っていただき、想定外の会場使用延長は皆無となりました。学生さんの労務管理には佐賀大学の先生に、また受付には県庁や当研究センターの事務職員の方々にお手伝いをいただき、大変な労力をご提供いただきました。



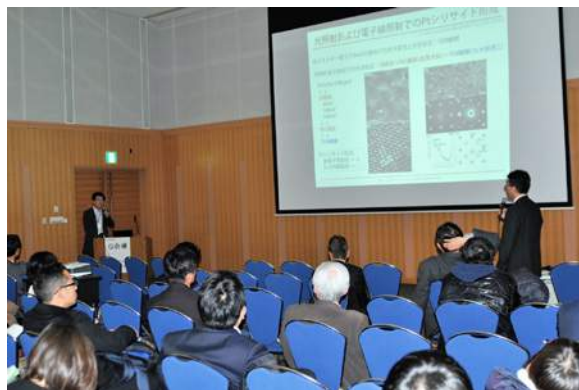
JSR2019 Report

シンポジウムの参加者は3日間合計で667名で、講演数とともに前回、前々回とほぼ同じ規模でした。前回JSR2018は特に学会創立30周年記念の記念大会でもあり、これと同じ規模で行えたので安堵感を覚えております。シンポジウムには同じテーマに基づいた一連の研究発表を企画する「企画講演」の提案制度があります。今回その制度に則った「九州・山口から発信する放射光の利用」と題した企画講演を行い、他機関ビームラインの方々および利用者の方々からの研究発表による当研究センターのアピールを行うこともできました。実行委員会やプログラム委員会の労力があつたことを考えると、これができたのは画期的であったと自負しております。

ご協力をいただいた多くの皆様に心より御礼申し上げる次第です。



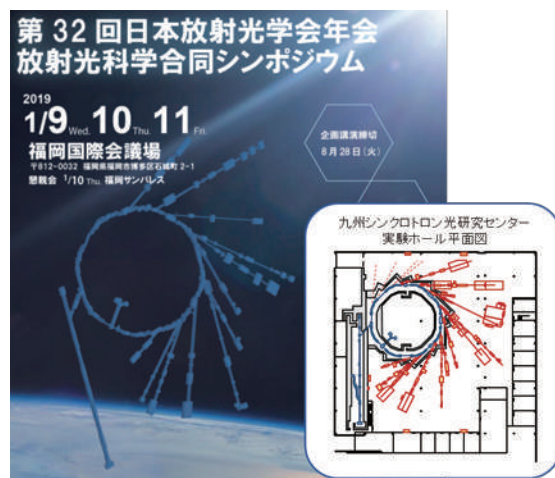
会場受付



企画講演「九州・山口から発信する放射光の利用」



懇親会の様子



シンポジウムのポスター
(右側は図案の元となった当センター平面図)

User Interview

今回は、当研究センターをご利用いただいている豊田中央研究所の磯村主任研究員と、慶應義塾大学の奥田准教授にお話を伺いました。



(株)豊田中央研究所
磯村 典武 主任研究員



慶應義塾大学工学部応用化学科
奥田 知明 准教授

(株)豊田中央研究所 分析部 主任研究員
1993年名古屋大学大学院工学研究科修士課程を修了。
同年に(株)豊田中央研究所入社。
2012年 東京大学大学院工学系研究科で博士学位を取得。
入社以来一貫して表面分析に従事、最近は放射光も利用。
従来は排気浄化触媒、光触媒、有機発光素子、原子数制御クラスター触媒などの研究開発に従事。
所属学会：応用物理学会

1997年東京都立大学理学部化学科卒業。
同修士課程を経て、2002年東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程修了、博士(農学)。
同年慶應義塾大学工学部応用化学科助手、同専任講師、米国ウィスコンシン大学マディソン校客員講師を経て、2015年より慶應義塾大学工学部応用化学科准教授。
Asian Young Aerosol Scientist Award (2015年6月)ほか受賞多数。専門は環境化学、大気科学、エアロゾル工学。生体有害性に関連する大気エアロゾルの物理化学特性の解明を目指して、既往の概念にとらわれない新たな手法を自ら開発しながら研究に取り組んでいる。

1. 日頃、どのような研究をされていますか？

磯村様：

現在は、主にSiCパワー半導体を対象とした分析や放射光利用分析技術の開発を行っています。いずれも深さが数nm-100 nmの表面や界面について、元素組成、化学状態、および原子構造の分析となります。最近開発した分析技術は、硬X線光電子分光 (Hard X-ray photoelectron spectroscopy: HAXPES) におけるエネルギー依存測定による深さ方向分析技術、軟X線吸収分光 (X-ray absorption fine structure spectroscopy: XAFS) における化学状態選択原子構造解析技術とこれを利用した界面選択原子構造解析技術などがあります。

User Interview

奥田先生：

粒子状物質が人体に有害であることは知られていますが、なぜ有害なのかについては未解明な部分も多いため、現在は主に粒子状物質の生体影響評価のために、その化学組成、表面積、帯電状態等の物理化学特性の解明を進めています。また、得られた知見を活かした環境浄化装置の開発にも取り組んでいます。

2. 当研究センターご利用のきっかけを教えてください。

磯村様：

2012年に、当所の他研究者と一緒にいったXAFS実験でBL12を利用させていただいたのが最初となります。それまではSPring-8でのHAXPES利用だけでしたので、XAFSは初めての利用でした。これをきっかけに、XAFSという手法の有用性を知りました。私自身が課題申請したのは2016年が最初で、SiCパワー半導体のXAFS分析でした。

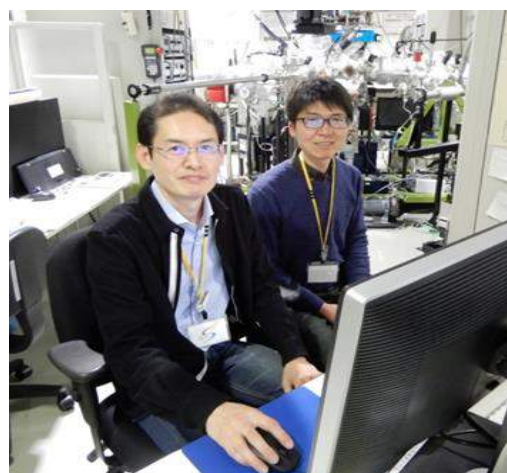
奥田先生：

環境中の金属はその化学状態により有害性が異なります。環境中の微量な金属の化学状態に関する知見を得るためにXANES測定を行いたいと考えておりましたところ、篠田弘造先生（東北大学多元物質科学研究所准教授）にSAGA-LSさんをご紹介いただきました。

3. シンクロトロン放射光を使われた感想はいかがですか。測定手法など含めて教えてください。

磯村様：

軟X線XAFSについては、硬X線を利用した場合のように標準スペクトルを簡単には得ることができず、試料間の違いは分かるものの化学状態や原子構造の特定は難しいと感じていました。最近、第一原理計算を用いたスペクトルシミュレーション解析によって、原子構造を特定できるようになりました。



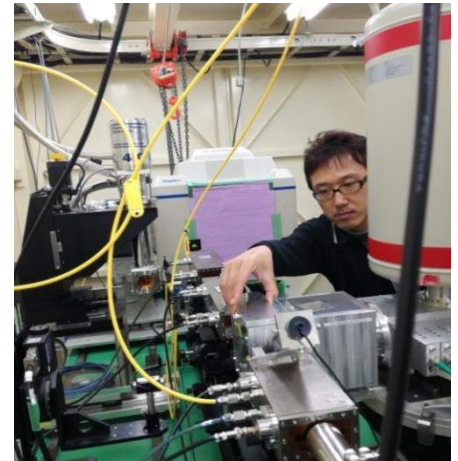
BL10で実験中の磯村様

User Interview

また、硬X線XAFSではExtended XAFS (EXAFS) 解析が一般的に行われますが、軟X線XAFSでも必要性はあるものの不可能と思っていました。他施設での利用ですが、私たちは差分電子収量法を開発することによりこれを克服し、軽元素であっても原子間距離や配位数の評価ができるようになりました。難しいと感じていた軟X線XAFSにおいても、現在は有効に利用しています。

奥田先生：

BL11にて透過法および蛍光法によるXANES測定を行っています。私は放射光分析は全くの素人なのですが、瀬戸山寛之研究員をはじめ、スタッフの皆さんに多大なご協力をいただきながら測定を進めています。大気中の粒子状物質はマトリックスも多様で測定しにくいサンプルだと思うのですが、皆さんのおかげで興味深いデータが取れるようになってきており、学生と一緒に喜んでいきます。



実験中の奥田先生

4. 貴機関におけるシンクロトロン放射光利用の位置付けを教えてください。

磯村様：

当所は、トヨタ自動車を始めとしたトヨタグループの中央研究所であり、研究分野は多岐にわたります。材料分野においては、様々なものが分析対象となり、従来の手法だけでなく、放射光や中性子を利用した分析も行っています。放射光の専用ビームラインとして、SPring-8に豊田ビームライン（1本）とサンビーム（2本、13社共同利用）を活用し、分析・解析だけでなく分析技術の開発も積極的に行っています。

また、専用ビームラインでカバーできない手法に関しては、SAGA-LSを始めとしてあいちSRやSPring-8の共用ビームラインも利用し、課題解決に繋がっています。

奥田先生：

現在は「サイクロン採取粒子のXANESによる詳細化学状態解析と細胞曝露応答評価」と「地下鉄構内で採取された粒子のXANESによる化学状態解析と生体影響評価」という2つのテーマで主に利用させていただいております。いずれの研究も、粒子状物質の化学組成分析は当研究室で実施可能なのですが、価数により有害性が異なる金属の化学状態を調べるにはシンクロトロン放射光の利用が欠かせませんので、とても助かっています。

User Interview

5. 当研究センターへのご要望、今後の抱負などお聞かせください。

磯村様：

いつも親切・丁寧に対応していただきありがとうございます。また、ビームライン担当者の方々の技術力も高いと感じています。なお、放射光利用に関しては対象と手法で適切な放射光施設・ビームラインがあり、今後も引き続き御施設を利用させていただきたいと考えています。また、御施設で得られた結果をできる限り論文投稿や学会発表の形で技術PRしていきたいと思えます。

奥田先生：

毎回利用につきましてはご配慮いただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。貴重な設備を多大なサポートの下で利用させていただいておりますので、真摯に研究を進めることで世の中に貢献したいと考えております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

6. 研究を進めるうえでのスタンスやポリシーなど、一言お願いします。

磯村様：

普段から大それたことは考えていませんが、常識にとらわれない、最初によく考える、できれば楽しく、でしょうか。

奥田先生：

「環境媒体（主に大気）と、人間の健康を結ぶ事象について、何らかの新たな知見を得て、世界の人々の、より健康的な生活に貢献すること」を研究室の使命に掲げています。「違いを生み出せる人材」を目指し、大気環境問題に関わる実験・研究に真摯に取り組むことにより、社会に貢献できる、また社会を牽引してゆける人材となるべく、学生さんと共に日々研究に精進しています。

この度はお忙しいところ、インタビューにご協力いただきまして、ありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。



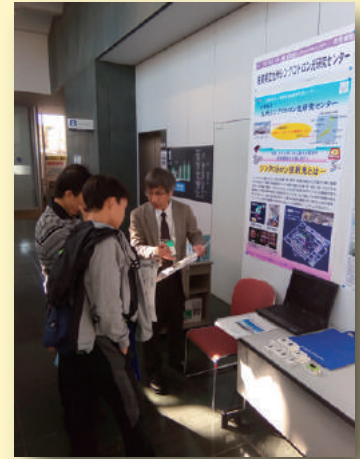
センターから



オープンイノベーションデー（宮崎）

平成 30 年 11 月 16 日から 17 日にかけて、宮崎県工業技術センターにて開催された「第 8 回九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデー」にブース出展いたしました。産総研九州センターと九州・沖縄各県公設試の最先端技術や最新情報技術を一堂に展示し、機関や技術の利活用を推進するために毎年開催されているイベントです。

会場には事業者以外に一般の方々も多数訪れ、各ブースで展示されている技術に関する説明を熱心に聞いていました。



nano tech2019（東京）

平成 31 年 1 月 30 日から 2 月 1 日の 3 日間にわたって、東京ビックサイトにて開催された「nano tech2019」に出展いたしました。長年ご利用いただいているユーザーの方々の研究成果をはじめ、当研究センターの測定事例などをポスターにてご紹介しました。また、ブースにご来訪された方には、センターの研究員が当施設について詳しくご案内いたしました。

ご紹介事例	
九州大学大学院 吉武研究室	ナノダイヤモンド膜のコーティング 多結晶ダイヤモンド膜の平坦化
佐賀大学・ 肥前セラミックス 研究センター	シンクロトロン光でここまで明らかになった 三重津海軍所一出土磁器一
当研究センターの 測定事例	X 線 CT による非破壊 3 次元観察 (BL07)
	In-situ XRD 計測 (BL15)
	シンクロトロン光を用いた 高精細 3 次元観察と実体化 (BL18)





地域戦略利用意見交換会

平成 31 年 2 月 18 日、当研究センターにおきまして、地域戦略利用意見交換会を開催いたしました。

今回は、千葉大学理学研究院准教授、沼子千弥先生をお招きし、「ヒザラガイの歯等の生体硬組織に関するシンクロトン放射光を用いた研究」というテーマで発表いただきました。



合わせて佐賀県農業試験研究センターから坂本様より「シンクロトン光を利用した花きの突然変異育種」、当研究センターの研究者である米山より「佐賀 LS における先端 X 線イメージングと植物の非破壊観察への応用」というテーマで発表がありました。その後、出席者の方には実験ホールをご見学いただきました。



鳥栖市明治維新 150 年祭

平成 31 年 1 月に閉幕した、「肥前さが幕末維新博覧会」との連携イベント、「鳥栖市明治維新 150 年祭」に単極モーターの工作ブースを出展しました。子どもたちが自分で造った単極モーターがくるくる回る様子を子供たちだけではなく、付き添う大人の方々も不思議そうに眺めていました。



今回子供たちが作った単極モーターです



Spring has come !!

第13回九州シンクロトロン光研究センター

研究成果報告会を開催します！

—特集：地方における研究基盤としての「九州シンクロトロン光研究センター」

地域の産業の高度化、新産業の創出、科学技術の振興を目的とした九州シンクロトロン光研究センター（SAGA-LS）は佐賀大学及び九州大学の他機関ビームラインも含め、研究者の皆様方へひとつの研究基盤を提供しています。今回の報告会は SAGA-LS の研究拠点としての魅力のアピールの場とさせていただきます。関係機関との連携の「深化」、新たな研究課題に向けた「新化」、技術レベルの「進化」を目指して、第13回研究成果報告会を開催します。

【日時】2019年5月20日（月）9：45～17：15

【場所】九州シンクロトロン光研究センター

【参加費】無料

【研究交流会】九州シンクロトロン光研究センター内（参加費 3,000 円）

【プログラム】概況報告

特別講演（九州大学 高原 淳 先生）

企画講演1（機関ビームライン（佐賀大学、九州大学）ご紹介）

企画講演2（SAGA-LS ご紹介）

ポスターセッション

施設見学

お申込みなど詳細はHPをご覧ください。
随時更新いたします。



施設見学者の ご紹介

今年度も1,214名と、多数のご見学者の方々をお迎えいたしました。
どうぞお気軽にお越しください。お申込みをお待ちしております。



多久市産業連絡協議会 様



杵築地区危険安全協会 様

佐賀城下ひなまつり



先日、佐賀市内で開催されている「佐賀城下ひなまつり」に。あちこちの会場で鍋島藩由来の趣のあるおひな様に会うことができました。

佐賀市の会場周辺に着いたら、ちょうどお昼。となると、まずはランチ。今回の会場の一つになっている、旧古賀銀行でいただくことに。ここはイベント会場の一つでもあるのですが、レトロな雰囲気のカフェにもなっているんです。

フロアの真ん中には大きな暖炉。さらに窓枠や天井、回廊の手すりなど、木がふんだんに使われているためか、ぬくもりのある雰囲気に。おひなさまたちに囲まれて、イベント期間のみの特別メニューをゆっくりと味わいました。



旧三省銀行のイベントは「鍋島緞通で飾るひなまつり」。鍋島緞通とは、江戸時代に中国から製法が由来した和製絨毯。佐賀の伝統工芸品です。名前こそ聞いたことがあるものの、実物を見るのは初めて。展示即売会の会場で、販売されている作品をさわってみると、毛足が長くやわらかで、とても木綿の糸とは思えないくらい。

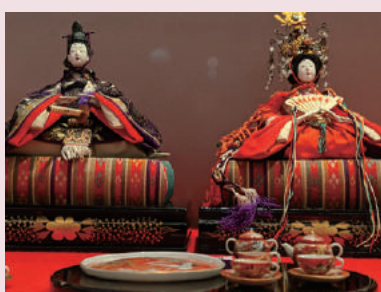
奥の間には、鍋島緞通で描かれた優美な表情のお内裏様とお雛様の作品が。大人の背たけほどもある作品です。一つ一つ糸を手作業で生地に通してこの巨大な作品が作られたと思うと、なんだか気が遠くなるような。



別室には桜の花をモチーフにした大きな作品がさらにもう一点。こちらは色合いが少しモダンな雰囲気です。

糸の微妙なグラデーションも美しく、まさに伝統工芸の技を目の当たりにすることができたのでした。

今回のメインが徴古館のイベント、「鍋島家の雛祭り」。鍋島家代々伝わる贅を尽くしたお雛様たち。



一対のおひなさまでこれだけのお付の人形と調度品。スマホに収めきれません。



実は私が心惹かれたのは、お雛さまのお人形そのものよりも、雛道具。小さな小さな道具に細やかに描かれている時絵や銀細工があまりにも美しく。同じ指を持っているはずなのに、どうやったらこんなに細かく細工ができるのでしょうか。ガラスケースに張り付いて、ひとつひとつじっくりと見入る。



今回、某経済紙の地方欄で徴古館でのこの催しが紹介されていたのですが、特筆されていたのが皇室での慶事の際に引き出物とされる「ボンボニエール」の展示。ガラスケースに飾られていたのは、これまた細かな伝統工芸。同じ小箱でも家紋入りの蒔絵で飾られていたり、形様々な銀細工が施されていたり。職人の技と遊び心が 5cm 四方もあろうかという小さな器に詰まっています。これまたガラスケースに張り付くようにして、ひとつひとつじっくりと鑑賞。そして美しさを堪能。



お雛さまの美しさを愛でるだけではなく、会場によっては座敷遊びのひとつ「扇投げ」のチャレンジコーナーがあったり、煎茶体験セットで一服したり。春の気配漂う佐賀の街歩きをのんびり楽しんだ一日となりました。お時間があれば、ぜひ行ってみませんか。



まめ雛道具たちもすごかった。



指の先ほどの雛道具たちです。
茶道具は小指の先ほど。
ここにも、職人たちの洒落っ気と
遊び心を感じますね。



INTERVIEW

佐賀県産の新品種いちごがデビューしました！



佐賀県
農業試験研究センター
係長 木下剛仁さん



20年ぶりの佐賀県産いちごの新品種「いちごさん」の開発にたずさわられた佐賀県農業試験研究センターの木下さんにお話をうかがいました。

🍓 「いちごさん」の誕生の背景を教えてください。

佐賀県は言わずと知れたいちごの産地ですが、平成10年の「さかのほか」誕生から20年が経過して、生産者の高齢化や品種競争の激化等により、生産者・作付面積ともに減少しているという現状がありました。そういった状況を解決するため、佐賀県といちご生産者、JAグループ佐賀の共同の一大開発プロジェクトとして取り組むことになりました。

🍓 15,000株の中から7年の歳月をかけて開発されたとのことですが、どのような方法で選抜されたのでしょうか？

まず、候補となる24種類の親を掛け合わせ15,000種の試験株を育苗しました。それから、味や形の良さ、生産性の高さなどをクリアしたものを選抜していきます。最終的に、形が良く収穫量の多い「佐系14号」を母に、とても味が優れている「やよいひめ」を父とする交配種が選ばれることになりました。

通常は開発に10年以上はかかるのですが、選抜の初期段階から多くの関係者がプロジェクトに関わることで、育成期間を大幅に短縮し、7年で開発に成功しました。



🍓 開発で一番苦労されたことは何ですか？

食味の良し悪しは食べてみないと分からないので、膨大な数のいちごを試食しなければなりません。色や形が良いものは全て試食するわけですから、中には全く美味しくないものもあり、胃薬が手放せませんでした。また、食味は人によって好みがあり、最終的に1つに絞り込む作業はとても苦労しました。

🍓 「いちごさん」のネーミングの由来はなんですか？

子供からお年寄りまで、日本中の人に長く愛される「いちご」なることを願って、また、いちご界の「ど真ん中」に君臨することを願ってネーミングされました。

🍓 近年他県からも続々と新品種が生まれていますが、「いちごさん」の魅力は何ですか？

昨今は全国でいちごの開発が盛んに行われていて、いちごの戦国時代ともいわれています。そこで首都圏在住女性108名を対象に調査をしたところ、人気品種の中でも最も「いちごさん」が美味しかったと4割以上の方が選択して、見事1位に選ばれました。味・色・形の三拍子がそろった佐賀県の自信作である「いちごさん」を、プレミアムないちごとして、日本はもちろん、世界も視野に売り出していく予定です。



「いちごさん」の特徴

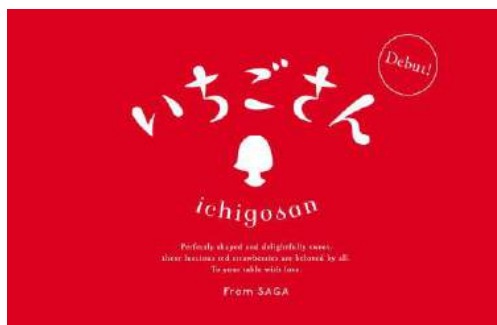
大きくうつくしい円すい形

果皮も果肉も真っ赤でつやがよい

糖度と酸味のバランスがよい

爽やかな香りでジューシー

お忙しいところ丁寧なご対応ありがとうございました。



「いちごさん」を試食しました！

果汁たっぷり！
甘さと酸味も程良いですね。
大きくて形がきれいですね。
贈答にもよろこばれそう ♪

YUMMY!

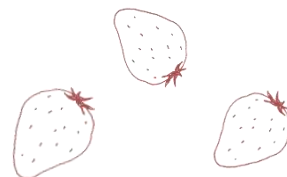
m o g u
m o g u



Happy
TIME

真っ赤でつやつや
ですね ✨
ジューシーで
あまくておいしい！

パッケージが
おしゃれですね ♪
どのいちごも美味し〜い。



発行日：平成31年3月27日

Web マガジン編集委員：東山、石郷岡